

予報1 大会山域について

今大会の山域は JR 筑前深江駅周辺から出発し間に大入（だいにゅう）駅を挟んで福吉駅周辺をゴールとする JR 筑肥線でのアプローチがよく、多くの登山者に親しまれている。浮嶽の由来は海から見ると浮いているように見える事から名づけられたといわれ、筑紫富士（つくしふじ）とも言われている。二丈岳は旧二丈町の町名から名付けられ、頂上付近には戦国時代に二丈岳城と呼ばれた石垣が残る。頂上からの展望はすばらしく、糸島平野、長崎県の壱岐・対馬まで見える。十坊（とんぼ）山は10人の僧侶の供養塔がある事から名付けられここも展望は360度開けている。

また、今大会の山域には神社も多くありコース中にも浮嶽神社、白龍稻荷を通過する。ほかにも加茂神社や白山神社などがあり白山神社は縁結びで知られる神社で菊理媛命（くくりひめのかみ）を奉っており、毎年5月には五穀豊穰、家内安全を祈願する福井神楽（ふくいかぐら）という伝統芸能が行われている。

また、別の登山口には加茂ゆらりんこ橋登山口があり、この橋は加茂川の上流にかかる全長100mのつり橋で1本のワイヤーで吊るされている。ここから二丈溪谷を通過して二丈岳に登ることができる。二丈溪谷の中で一番落差が大きい滝が明神（みょうじん）の滝で二丈溪谷を登りきると加茂神社がある。

今回の山域の中腹を通る広域基幹林道は唐津市七山と糸島市福吉をつなぐ白木峠の北側から始まり、展望が良い極楽（ごくらく）展望台・いきさん展望台・はろ展望台のほかにアドベンチャー施設であるフォレストピアや景勝地である白糸（しらいと）の滝があり、糸島市長糸と佐賀市富士町をつなぐ長糸峠まで伸びている。

スタート付近にはラドンを含む天然温泉二丈温泉きららの湯、ゴール付近には空海が湧き立たせたといわれるまむしの湯などの立ち寄り湯があり、農産物では福吉で品種改良されたみかん「はるか」や水産業では日本有数の真鯛の水揚げ量及びカキ小屋が有名である。また、姉子の浜は鳴き砂といわれ、海岸で長さ1,1kmの海岸が弓状に広がっている。日本では島根県の琴ヶ浜、京都府の十八鳴浜（くぐなりはま）、宮城県の大鳴き砂（くぐ）鳴き浜が三大鳴き砂といわれる。

2. 荒天対策について

(1) 荒天対策は次のような場合に実施する。

- ①風雨及び風雪が激しく全面的に登山行動や幕営が困難なとき。
- ②①に準ずる天候（雷の異常発生、河川の増水など）で稜線や沢筋での行動が困難なとき。
- ③路面凍結のために、入下山口への経路が通行不能になったとき、または、そのおそれのあるとき。

(2) 荒天対策の実施

原則として情報を大会本部で検討し、専門委員長が指示する。

(3) 荒天対策は「行動可能な場合」と「行動不可能な場合」に分けて実施する。

- ①行動可能な場合はルート及び行動形式を変更して行動する。また、登山行動中の天候の激変や落雷等の突発事項の場合は、事前に計画した荒天対策によらない緊急避難を行う可能性もある。
- ②行動不可能な場合は前日までに専門委員で検討し各学校に連絡する。

予報2 大会ルート

1日目

糸島市交流プラザ二丈館からスタートする。最初に県道49号線を横断歩道を横断し、南側方向の今宿道路（二丈浜玉道路）方面へ進む。目の前が今宿道路となると十字路になっているので、ここを右折する。しばらく道路沿いに進んでいくと右がキツ川踏切、左が粹透（すいとろ）水の看板がある十字路になるのでここを左に進む。今宿道路高架をくぐるとすぐ右側に二丈岳登山口と看板があるので、看板に従い右へ進む。淀川と呼ばれる川に橋が架かっているので橋を渡り川の上流へと左折する。川に沿って進むと民家が途切れた辺りから左の山側にはヤブつばきが見られ、右側には老人介護福祉施設がある。さらに進むと西日本短大が見え分岐となる。この分岐が西日本短大分岐でここを左折する。この道を進んでいくと直進と左に分岐した登山口があるので登山口の左に進む。ここから本格的な山道となる。この山道を一度登りきると再び車道となる。この車道を右に進む。この辺りは杉の植林と林床にはアオキやツブキが特に目立つがヤツデやヤブムラサキも存在感がある。しばらく進むと右手にグラウンドが見え、さらに進んでいくと登山口に到着する。ここから車道を離れ左の登山口へと入る。この先車道を横断し、2回目の横断の場所が北登山口となる。車道はここままで上から降り来る車はないと思うが作業車等注意が必要である。

杉の植林の中、足元には時おりゼンマイがある。さらに進んでいくと植林が開けた場所に出る。この辺りはヤマザクラが最近植林されたようだ。さらに登っていくと左手に一貴山分岐があるが直進して山頂を目指す。地図によっては実際の分岐点と場所が変わっている可能性がある。山頂が近づくと大岩が目立ち、その中の1つには白山菊理媛命祠がある。ここを通過すると標高711mの二丈岳山頂である。山頂からは西側に女岳・浮岳・十坊山が見え、北側は唐津湾の先に老岐がみえる。山頂をそのまま通過して西へ下っていくとこの辺りはヒノキが目につく。さらに下ると平坦な広場となりここが真名子登山口分岐で左折する。ここからは荒れてはいるが舗装道路となり杉の植林の中フユイチゴも赤い実をつけている。このまま下っていき女岳が見えてくると間もなく木の香ランドに到着する。木の香ランドにはテントサイトの他バンガロー、調理場、トイレの完備している。



登山口を左折



北登山口入口



二丈岳山頂から西方面

2日目

木の香ランドをスタートし杉の植林に囲まれた車道を下り左折してつばき橋を渡る。そのまま車道を歩いていくと右側に女岳登山口の標識が立っているのここから登山道に入っていく。杉の植林の林床にフユイチゴやウラジロを確認しながら15分ほど進むと一度広域基幹林道を横断し女岳北登山口に到着する。この付近から傾斜がきつくなるので滑らないように注意して進んでいく。さらに15分ほど歩くと荒川分岐に到着し、ここからは脊振山脈の縦走路となる尾根を進む事となる。縦走路を10分ほど歩くと標高748mの女岳山頂に到着する。ここからは北側の一部が開けており糸島半島を望むことができる。女岳山頂を通過するとそのまま西側の荒谷峠へ向かって高度を下げながら進んでいく。高度で200m程度下ると車道に到着する。ここが荒谷峠である。ここからは今から登る浮嶽が正面に見ることができる。

車道を右に進むとすぐに左右に分かれここを左側に進む。車道を進むとすぐに右側の尾根線上に浮嶽東登山口の標識が現れるので、ここから再び登山道に入っていく。この中も杉の植林地帯となり展望はほとんどない。ここから浮嶽山頂を目指す途中車道からの分岐点を3回通過する。2回目の分岐を超えた付近から急登になりロープが設置してあるが後方から登る人の安全を考慮して使用せず、もしくは必要な時は声をかけてから使用して欲しい。3回目の分岐の場所には右側に白龍稻荷神社分岐があり、神社の上に大岩がある。ここにくると展望がひらけているので下見の時には立ち寄って欲しい。神社の周辺には林床にシシガシラが確認できる。この後はゆるやかな登りとなって浮嶽神社上宮がある今回のルートで最高標高となる805mの浮嶽に到着する。ここも展望はあまりひらけていないので、一息ついて白木峠へ向かう。急斜面を下っていくとこの辺りの植生は照葉樹でアカガシやタブノキの大木がある。3本の杉の大木付近から一旦緩やかになり、その先に左へ分岐がある。さらに下っていくと左側にゴルフ場と池が見える。この辺りは杉の植林と竹林が目立つ。この後は小さいピークをいくつか通過し県道143号線に出る所が浮岳西登山口で白木峠である。この道は南側が唐津市七山方面、北側は福吉駅方面へ通じている。交通量が多いので道路を注意して横断し十坊山東登山口から十坊山を目指す。ここまでのルートが隊行動となる。白木峠から先はパーティー行動となるので記録書・地図を提出して、これから先も安全に留意しながら顧問と一緒に登山して欲しい。30分程度で坊主岩と呼ばれる大岩が見えてくる。この大岩がある場所が標高535mの十坊山となる。今回のルートで一番低いピークとなる坊主岩からの展望は360度見渡せる。今まで登ってきた浮岳・女岳・二丈岳とルートを確認することができる。一休みしたらここからは中村登山口まで下っていく。登山道の途中で左側へ行く道があるので間違えないように注意しながら進んでいく。そのまま進んでいくとミカン畑となり車道となる。ここからもいくつか道があるので地図を注意しながら進んでいくと中村登山口に到着する。



女岳北登山口



荒谷峠 車道を左へ進む



浮嶽山頂



十坊山山頂から浮嶽